

# 報告書抄録

ふりがな	はりしじょういせき2							
書名	針氏城遺跡2							
シリーズ名	ほ場整備関係（経営体育成基盤整備）遺跡発掘調査報告書							
シリーズ番号	39-1							
編著者名	大崎康文							
編集機関	滋賀県教育委員会事務局文化財保護課			財団法人滋賀県文化財保護協会				
所在地	〒520-8577 大津市京町四丁目1番1号 077-528-4674			〒520-2122 滋賀県大津市瀬田南大萱町1732番2号 077-548-9780				
発行年月日	平成24年（2012年）3月							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査 面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
はりしじょういせき 針氏城遺跡	こなんしはり 湖南市針	25362	041	34° 59' 50"	136° 04' 30"	2009 04 13 ) 2009 07 31	1,604㎡	県営経営体育成 基盤整備事業 (甲西南部1地区)
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物		特記事項	
針氏城遺跡	城館	室町時代		堀・溝	土師器・陶磁器			
	集落	古墳時代後期		竪穴住居・柱穴	土師器・須恵器		狐栗古墳群との関連	
		江戸時代		土坑・井戸	陶磁器・硯		集水遺構	
その他	古墳時代～中世		遺物包含層	須恵器・土師器 陶磁器・有孔円板 土製紡錘車 製塩土器・籠目土器 緑釉緑彩陶器				
要約	<p>針氏城遺跡は、旧東海道に面した針集落の南側に位置している。『江州佐々木南北諸氏帳』・『芥川氏正徳二年自記 甲賀古土之事』に針和泉守の名と針村住とあることから、針和泉守の城に比定されている中世城館跡である。これまで城の構造等、詳細は不明であったが、今回の調査で堀跡を2条検出し、新たな知見を加えることができた。</p> <p>さらに、湖南市域の古墳時代集落遺跡はこれまで野洲川に近い井戸遺跡のみが知られていたが、今回の調査で竪穴住居を2棟検出し、丘陵付近にも集落が展開することが新たに確認できた。調査区の南隣には21基からなる狐栗古墳群があり、これとの関わりが想定できる。</p> <p>また、遺物包含層には、古墳時代の遺物のほかに中世までの遺物が含まれていた。そのなかには管玉や有孔円板、製塩土器、緑釉緑彩陶器など注目できる遺物が含まれており、当該期の遺構は見つかっていないものの、当遺跡の性格を示唆するものである。古代の東海道は、近世東海道よりも北側に想定されているが、遺跡近辺を通過していたことにかわりはなく、これらの遺物は各時期を通して交通の要衝に位置していたことを物語るものであろう。</p>							